

令和 3 年 4 月 16 日

(※受付番号)

教 育 長 様

研究コース
グループ研究B
校園コード（代表者校園の市費コード）
721642

代表者 校園名： 大阪市立南港桜小学校
 校園長名： 稲谷 哲也
 電 話： 06-6613-0160
 事務職員名： 木谷 友亮
 申請者 校園名： 大阪市立南港桜小学校
 職名・名前： 教頭・井後雅之
 電 話： 06-6613-0160

令和3年度 「がんばる先生支援」研究支援 申請書

◇本研究の支援を受けたく、次のとおり申請します。

1	研究コース	コース名	グループ研究B	研究年数	新規研究（1年目）
2	研究テーマ	文字を大切にし、学んだことを日常生活に生かそうとする子どもの育成			
3	研究目的	<p>テーマに合致した目的を端的に記載してください。</p> <p>国語科書写の学習は、学習指導要領において【知識及び技能】に位置付けられており、我が国の大切な文化として、身に付けることができるよう指導していくことが大切である。また、【思考力、判断力、表現力等】の「書くこと」の領域の指導と密接に関連している。「書くこと」では、日記や手紙を書いたり、行事の案内やお礼の文章を書いたりするなどの学習活動に生かす。そこから、学習した内容をノートに書いたり、調べたことを模造紙にまとめたり、他の教科・領域の学習や日常生活にも広げたい。文字を大切にすることは、文字を正しく整えて書くことができるようになることに加えて、手書きの文字に親しみをもったり、相手を意識して文字を読みやすく、ていねいに書いたりすることである。</p> <p>文字を大切にする子どもを育てるために、自ら課題をもち意欲的に学習に取り組もうとする力を身に付け、グループで話し合って自分の課題を見つけたり、アドバイスすることで課題を解決しようとする力を重点的に考えていきたい。</p>			
4	研究内容	<p>継続研究は、前年度の成果と課題を分析した内容を踏まえて記載してください。</p> <p>大阪市小学校教育研究会国語部書写委員会で以前から研究を重ね、実践を行ってきた、『「試し書き」と「まとめ書き」を比較する授業展開』は令和元年度からの教科書にも取り入れられた。また、書写学習の基礎・基本や系統性を意識した学習指導や書写用語、さらに、ICT機器を活用した、書写学習の授業の展開（誰でもできる書写授業）もwaku×2.com-bee（大阪市の授業のスタンダード）に掲載することで、全市にも広げることもできた。今後は、さらにコンテンツの充実や学習指導要領で追加された水書用筆を用いた指導法や教材・教具の活用方法を研究し全市広げていきたい。</p> <p>①文字を正しく整えて書くことのできる児童の育成 書写の基礎・基本を明らかにし、系統性を考えて、既習事項と本単元の関連を図る。児童の書写に関する意識・技能について実態を把握し、グループで課題解決学習を行い、相互評価を行うことで、成就感・達成感を味わうことができるようになる。また、自分の書く文字を大切にできるようにする。</p> <p>②水書用筆を用いた指導実践事例の作成と書写用語を用いた学年の系統性を図る 水書用筆を用いた指導の実践を行い、実践事例を作成・周知し、教員の資質向上につなげる。また、講師を招き研究会を行うことで、水書用筆の効果的な活用について広める。書写用語を用いて話合い活動を行い、主体的・対話的で深い学びにつなげる。</p> <p>③他の教科・領域の学習や日常生活への活用 書写学習で身に付けた技能を他教科や日常生活にも生かして活用することができるようになる。日記や手紙を書いたり、行事の案内やお礼の文章を書いたりするなどの学習活動に生かす。さらに、日々の学習した内容をノートに書いたり、調べたことを模造紙にまとめたり、他の教科・領域の学習や日常生活にも生かせるように指導法や教材・教具の活用方法を研究し全市に広げていく。</p>			

研究コース

グループ研究B

代表校校園コード

721642

代表校園

大阪市立南港桜小学校

校園長名

稻谷 哲也

5	活動計画	<p>日程や内容など、研究の過程がわかるように詳細に記載してください。</p> <p>毎月1回以上の研修会、書写の授業の流れや基礎・基本が分かるように伝達するための資料の作成、実践事例の作成とwaku×2.com-beeへの資料の掲載、新任研修での指導</p> <p>4月 研究テーマの設定、年間計画の策定、目標・内容の検討 書写研修会（以降月1回以上）</p> <p>5月 教員・児童へのアンケート作成・実施・分析</p> <p>6月 実践研究、新任研修の資料作成 授業づくり研修会【講師：横浜国立大学教授】</p> <p>7月 新任研修、指導技術講座の準備 研究発表会へ向けての指導案検討</p> <p>8月 1学期の実践を振り返り実践事例を作成 公開授業の準備</p> <p>9月 全国大学書写書道教育学会（香川大会）参加、伝達研修 公開授業準備</p> <p>10月 公開授業プレ授業 書写（水書）資料作成</p> <p>11月 公開授業開催 授業づくり研修会【講師：横浜国立大学教授】</p> <p>12月 研究発表会準備</p> <p>1月 研究発表会【講師：横浜国立大学教授】</p> <p>2月 教員・児童へのアンケート実施・比較・分析 全日本書写書道研究会全国大会（神奈川大会）参加、伝達研修</p>
6	見込まれる成果とその検証方法	<p>大阪市教育振興基本計画に示されている、子どもの心豊かに力強く生き抜き未来を切り開く力の向上および教員の資質や指導力の向上について、見込まれる成果を端的に記載し、その成果について、客観的な指標により必ず数値で示すことができる検証方法を記載してください。</p> <p>【見込まれる成果1】 文字を書くときの姿勢、正しい鉛筆の持ち方をし、文字を正しく・整えて書くことを意識することができる児童の育成をめざす。</p> <p>《検証方法》 学習シートの振り返りで、「鉛筆の持ち方と姿勢に気を付けて書くことができた」や「本時課題に気を付けて書くことができた」などの肯定的な回答をする児童の割合を80%以上にする。</p> <p>【見込まれる成果2】 文字を大切にすることができる。自分の手書きの文字に親しみをもち、相手を意識して文字を読みやすく、ていねいに書くことができる児童の育成をめざす。</p> <p>《検証方法》 アンケート「自分の書く字が好きですか」の項目で年度始めと比較し、肯定的な回答を5ポイント上昇させる。「相手を意識して文字を読みやすく、ていねいに書いていますか」の項目で年度始めと比較し、肯定的な回答を5ポイント上昇させる。</p> <p>【見込まれる成果3】 書写で身に付けた力を他の教科・領域の学習や日常生活にも広げができる児童の育成をめざす。</p> <p>《検証方法》 アンケート「書写で身に付けた力を他の学習に生かせましたか」の項目で年度始めと比較し、肯定的な回答を5ポイント上昇させる。</p>

研究コース

グループ研究B

代表校校園コード

721642

代表校園

大阪市立南港桜小学校

校園長名

稻谷 哲也

6	見込まれる成果とその検証方法	<p>【見込まれる成果4】 本研究の研究を新任研修や指導技術講座、研究発表会などで広めることにより、教員の指導力向上につながる。</p> <p>『検証方法』 研修会に参加した教員向けのアンケートで「本日の研修に満足していますか」の項目で肯定的な回答をする参加者の割合を80%以上にする。</p> <p>【見込まれる成果5】 書写学習の基礎・基本や系統性を意識した学習指導や書写用語、さらに、ICT機器を活用した、書写学習の授業の展開（誰でもできる書写授業）や水書用筆を用いた指導法や教材・教具の活用方法もwaku×2.com-bee(大阪市の授業のスタンダード)に掲載することで、教員の指導力向上につながる。</p> <p>『検証方法』 アンケート項目「水書用筆を用いた指導は有効」の割合を90%、「校内で水書用筆を用いた指導を行った」を年度始めと比較し、5ポイント上昇させる。</p>				
7	研究成果の共有方法	<p>◆研究発表【必須】 報告書提出日（令和4年2月25日）までに必ず行ってください。</p> <p>○研究発表の日程・場所（予定）</p> <table border="1" data-bbox="409 968 1061 1046"><tr><td>日程</td><td>令和 4 年 1 月 21 日</td><td>場所</td><td>大阪市立みどり小学校</td></tr></table> <p>◆代表校園HPでの共有【必須】</p> <p>他の共有方法を計画している場合は記載してください。 waku×2.com-bee(大阪市の授業のスタンダード)に資料の共有 研究支援メンバーの各校ホームページでの共有</p>	日程	令和 4 年 1 月 21 日	場所	大阪市立みどり小学校
日程	令和 4 年 1 月 21 日	場所	大阪市立みどり小学校			
8	代表校園長のコメント	<p>学習指導要領において、小学校1・2年生における「水書用筆等を使用した運筆指導」が話題となっている。教科書も変わり、どの教科書においても水書が取り上げられ、ほとんどの学校で水書用筆を購入したと聞いている。しかし、その指導方法についてはほとんどの教員が知らず、いつ、どのように使えば効果的なのか戸惑いを感じている。</p> <p>そこで、先進的に研究を進めている他府県の情報を収集し、大阪市に広めていく必要がある。また、それが中学年・高学年へつながるような授業づくりを研究することが必要である。さらに、より効果的な授業づくりができるよう、新しい教材教具の開発を進める。</p>				